

## 涙の手紙

コリントの信徒への手紙Ⅱ 二章一―四節

私は苦悩と憂いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。

それは、あなたがたを悲しませるためではなく、……溢れるばかりの愛を知ってもらうためでした。(4)

コリント教会の問題を伝え聞いたパウロは第一の手紙を書いた後、コリント教会を訪問しました。その際、教会を立て直すためにかなり思い切った発言をし、また「処罰」(二六)も行いました。しかし、それらは解決をもたらしませんでした。どんなにパウロが熱心に語っても、神ご自身が彼らに働きかけてくださらない限り、問題は解決しないことをパウロは深く悟りました。パウロに出来る残された一つのは、涙を流して神に祈ることでした。その涙の祈りの中から、「涙の手紙」と呼ばれる書簡が記されました。パウロがどれほど彼らを愛し、主なるキリストにしっかりと結びついて欲しいと願っているかを伝えるためでした。教会はこのパウロの愛を受け継ぐ者たちの群れです。人々がキリストのもとに立ち返るのを願って、悲しみを担いつつ、涙の祈りを神にささげるのです。